

令和3年度 高知県合同輸血療法委員会

日 時：令和4年3月18日（金）18:30～20:00
開催方法：ZoomによるWeb会議

次第

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 議事
 - (1) 廃棄血・血液製剤の使用状況について……………資料1
 - (2) 血液製剤の院内備蓄量について……………資料2
 - (3) 高知県における血液製剤使用実態等について……………資料3
 - (4) ニュースレターについて……………資料4
 - (5) その他
 - ・輸血に係る過誤・インシデント報告集計結果について……………資料5
 - ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う献血量等への影響について…資料6
 - ・災害時における輸血用血液の供給について……………資料7
 - ・血液事業に係る啓発について……………資料8
- 4 閉会

高知県合同輸血療法委員会委員名簿

(任期: 令和2年6月6日～令和4年6月5日)

所属	職名	氏名
高知医療センター	小児診療部長	西内 律雄
高知大学医学部附属病院	輸血・細胞治療部 副部長	今村 潤
社会医療法人 近森会 近森病院	消化器内科主任部長	榮枝 弘司
国立病院機構高知病院	臨床検査科長	成瀬 桂史
高知赤十字病院	副院長 兼第一内科部長	溝渕 樹
高知県立幡多けんみん病院	診療部長 兼外科部長	秋森 豊一
高知県医師会	常任理事	久 明史
高知県赤十字血液センター	所長	松田 善衛

ニュースレター



ニュースレターの発刊にあたって

発行元：高知県合同輸血療法委員会
発行日：令和2年4月17日

高知県合同輸血療法委員会は、県内6つの主要医療機関、高知県赤十字血液センター、高知県医師会、高知県によって開催され、県内の血液製剤の需給状況や使用状況を分析・評価・情報共有し血液製剤の適正使用の推進を図ることを目的としています。

この度、より多くの医療機関の皆様には、県内の血液製剤使用状況等を知っていただき、適正使用を推進するため、「高知県合同輸血療法委員会ニュースレター Vol.3」を発刊することとなりました。

皆様方には、引き続き血液製剤の適正使用にご協力をお願いいたします。

令和元年度高知県合同輸血療法委員会 開催報告

日 時 令和元年11月30日（土）9:30～11:00
場 所 近森病院管理棟3階会議室
出 席 委員7名（委員代理含む）、オブザーバー3名

今回の委員会では、以下の内容について協議されました。

- 議事内容
- 1 廃棄血・血液製剤の使用状況について
 - 2 平成29年度血液製剤使用実態調査について
 - 3 ニュースレターについて
 - 4 その他

廃棄血・血液製剤の使用状況については、各委員より自院での血液製剤の使用状況（赤血球・血漿・血小板・自己血の使用量・廃棄量・廃棄率）及び経年推移、またその背景が報告され、各医療機関では患者状態を総合的に判断しながら血液製剤の使用が検討されており、適正使用について協議している等の説明がありました。

また今回、各医療機関の血液製剤の在庫量のデータを共有したところ、在庫量については、供給と使用期限切れによる廃棄のバランスをみながら、院内における分析・検討及び血液センターとの調整を図る必要がある等意見があり、医療機関における血液製剤の適正な在庫量について協議されました。

さらに、本委員会の今後の取組の方向性として、災害時の輸血の運用方法に関する協議も併せて実施していくことや、委員増員に関する提案がありました。

高知県における人口1,000人当たりの血液製剤供給量について

経年推移

赤血球製剤				血漿製剤				血小板製剤			
年度	高知県	順位	全国平均	年度	高知	順位	全国平均	年度	高知	順位	全国平均
2013	59.7	4	50.7	2013	30.0	7	25.2	2013	71.5	18	71.2
2014	61.1	2	50.5	2014	27.6	8	25.0	2014	75.8	15	70.8
2015	57.5	5	50.4	2015	24.5	15	24.9	2015	80.7	10	70.3
2016	58.7	3	50.1	2016	27.4	7	24.6	2016	72.4	14	71.0
2017	57.5	5	50.3	2017	20.8	7	17.3	2017	78.4	9	70.8
2018	55.0	10	49.7	2018	19.2	7	17.1	2018	77.3	9	69.0

中国・四国管内（2018年度）

赤血球製剤			血漿製剤			血小板製剤		
順位	都道府県	供給量	順位	都道府県	供給量	順位	都道府県	供給量
8	山口	57.0	7	高知	19.22	1	広島	115.78
10	高知	55.0	12	岡山	17.97	7	鳥取	80.27
18	香川	52.1	-	全国平均	17.07	9	高知	77.25
19	岡山	51.8	18	香川	16.90	13	徳島	73.61
20	徳島	51.5	19	山口	16.85	-	全国平均	68.97
23	愛媛	50.7	29	愛媛	14.23	18	岡山	67.62
24	鳥取	50.03	33	広島	13.65	20	島根	65.17
25	広島	50.01	42	島根	11.50	31	山口	58.68
-	全国平均	49.7	44	鳥取	11.20	32	香川	57.69
46	島根	36.5	46	徳島	11.08	43	愛媛	48.07

○高知県の特徴

- 赤血球製剤の供給数については減少傾向にあるが、血小板製剤は増加傾向にあり、いずれも全国平均を上回る形で推移している。また、全国及び中国・四国管内でも上位に位置している。
- その要因として、高齢化率・人口当たりの病院数・機能別病床数・地域特性などが複合的に影響していることが推測される。

平成29年度血液製剤使用実態調査報告（高知県Ver.）

高知県合同輸血療法委員会 高知県輸血・細胞治療研究会

血液型を確定する際に主治医による判定を採用していますか

項目	全国	0床		1~299床		1~299床	
	高知県	0床		1~299床	100~299床	1~299床	100~299床
	区分	回答数	比率	回答数	1~99床	比率	1~99床
使用している	全国	63	15.40%	239		8.06%	
	高知	1	12.50%	8	2 6	17.02%	14.29% 18.18%
一部使用している	全国	24	5.87%	175		5.90%	
	高知	3	37.50%	7	2 5	14.89%	14.29% 15.15%
使用していない	全国	322	78.73%	1282		86.05%	
	高知	4	50.00%	32	10 22	68.09%	71.43% 66.67%

解説

全国と比較して0~299床の施設では主治医による判定を採用している割合が高い。県内300床以上の施設では、全ての施設が使用していない。